

厚生委員会の報告

■滋賀県野洲市

地域通貨「すまいる」によるCO₂削減など 環境への取り組みについて

具体的なCO₂削減策を学ぶため、環境を土台に生きる意味が実感できる地域づくりを目指す野洲市の地域通貨「すまいる」、野洲版地域ISO「楽エコ・トライ」等の仕組みを視察しました。

具体的には「すまいる」の売り上げ等からソーラーパネル3基を設置するなど、経済的な動機付けによりCO₂削減が推進されていました。

また、「楽エコ・トライ」は、野洲版地域ISOで、「これならできる」「やってみたい」という動機付けのもと、エコ・シートにその具体的な取り組みを記入し、ステップアップしながら、簡単・気軽に楽しく省エネをできる仕組みとして市民に浸透していました。

羽村市でも環境基本条例、地球温暖化対策実行計画などを策定し、さまざまな施策を講じていますが、市民参加と協働をより一層進め、経済的な動機付けや地産地消と結びつけた、企業・家庭を含めた積極的なCO₂削減目標設定と実践が必要だと感じました。



▲ソーラーパネル

■新大江病院（京都府福知山市） 公設民営化による病院改革について

地域医療のあり方・病院経営の手法・地域住民と医療の連携等を学び、羽村市を取り巻く医療・介護等の課題に対する検討を深めるため、視察を行いました。



▲病院受付

病院経営や財政が厳しい中、住民の声を聞いて存続を決定し、公設民営化による病院として、病院や職員がどう変ぼうしたか、また、医師確保のためにどのような取り組みをしているのかを学びました。住民から求められる医療・介護の提供と信頼される病院を基本理念として、新たに訪問看護事業・居宅介護支援事業を取り入れたり、急患を随時受け入れるなどの工夫

をしていました。職員は費用対効果や接遇の重要性など意識改革を迫られ、経営意識が醸成されました。民営化後の決算状況は、経常利益が増えるなどまずまずの状況で、これからの正念場であると感じました。

視察を通して、公設民営化による病院改革の概要を学ぶことにより、羽村市を取り巻く医療・介護のあり方、地域住民と医療機関をどう結びつけるか等を検討する材料を得ました。

■発達障害者支援センター「かがやき」（京都市） 発達障害者支援策と支援センターについて

羽村市内でも増加している発達障害者への支援について、主に相談、就労、啓発、発達支援の4つの機能を持つ京都市発達障害者支援センター「かがやき」の取り組みを学びました。

「かがやき」は、医師6人、臨床心理士3人を含む18人で運営されています。発達障害のある人に対して、それぞれの障害の特性に応じて、それぞれの障害の特性に応じた療育事業が行われています。例えば、自閉症は言葉の意味をうまく理解できないので、ティーチブ

ログラムによる絵やカードでの指導法などが積極的に取り入れられています。発達障害者支援法の対象である自閉症スペクトラム、注意欠陥・多動性障害、学習障害などの障害を持つ人に対して、相談、就労など4つの支援により、市民の認識を深め、障害にあった訓練をすることで、能力を向上させる仕組みになっていました。

京都市は、センターに行けば、相談も研修も発達支援も就労も同じところで専門家による支援を受

けられますが、羽村市は広域（障害者就労支援センター、青梅東学園、羽村特別支援学校等）で支援しているため、それぞれの施設との連携が非常に重要であると感じました。



▲「かがやき」

総務委員会の報告

■田原小中学校（奈良市）、にしみたか学園（三鷹市）、興本扇学園（足立区）

小中一貫教育について

現在、羽村市では「小中一貫教育校」の検討が行われていません。検討委員会による中間報告も平成20年3月に示されました。そこで総務委員会として、小中一貫教育を行い成果を挙げている自治体に伺い、成功のポイントを学んでくることにしました。



▲情報科授業風景（田原小中学校）

田原小中学校は、もともと小学校と中学校が同一敷地内にあるという条件を生かした「施設一体型」の小中一貫教育校です。教育特区の認定を受け、英会話科、情報科、郷土「なら」科を

にしみたか学園は、1つの中学校とその学区内の2つの小学校からなる「施設分離型」の小中一貫教育校です。6・3制を保ちつつ、コミュニティ・スクールを基盤とし、学校と地域が協働し、9年間の一貫した教育が行われていました。3校が離れているため、「学園としての一体的運営」を図る必要があります。教員1人に1台のパソコンを配備し、連絡調整を円滑化し、校務の効率化を進めています。また、学校運営協議会による地域住民参画も図られています。

興本扇学園は、隣接した小中

■市民活動支援センター（三重県伊賀市） 「住民自治協議会」に学ぶ

「市民が主役、地域が主体」との考えのもと、新しい住民自治のあり方を学ぶため、三重県伊賀市を視察してきました。伊賀市は、既に自治基本条例、議会基本条例を制定しています。

伊賀市の「住民自治協議会」とは、地域に住むあらゆる人が自由に参加でき、地域が抱える問題を話し合い、解決する場として、地域住民により自発的に設置されている住民組織です。住民自治協議会（個人単位の加入）は、最も身近な自治会（世帯単位の加入）を

学校を一体運営する「施設併設型」の小中一貫教育校です。4・3・2の区分を保ちつつ、月1回の職員会議や行事の合同化が進められていました。教員間の情報共有のためのネットワークの構築や、地域の理解を得るための学園からの情報発信も熱心に行われていました。小中一貫教育には教員の制度に対する理解と認識、保護者や地域住民の理解と支援を得る努力が必須であることを痛感しました。

残して誕生します。小学校区単位を基本のまとまりとして、自治会などのさまざまな団体や個人からなる、ネットワーク型の組織です。ここでは、地域の現状・課題、住民の考えを共有していきます。また、意欲のある人、地域外の人も含めて、アイデアを持った人が集まることのできる組織としています。そして、地域のまちづくり計画をまとめ、実行委員会形式などで役割を分担し、いろいろな団体や組織と連携して実践していきます。このように、みんなで考え、みんなで活動できる場として、住民自治協議会は発足しました。



▲市民活動支援センター



▲市民活動支援センター受付

今回の視察で学んだことは、自らのまちは、自らで考え、自らで運営すること。そして、行政の下部組織でなく、対等という関係を明確にしたということ。また、小学校区単位を基本として自治を考えたことなどでした。新しいコミュニティを創出した伊賀市から、羽村市の住民自治を一步前進させる、大切なヒントを得た視察となりました。

経済委員会の報告

■はままつ産業創造センター、やまと興業株（静岡県浜松市）
産業振興施策について

「はままつ産業創造センター」は、浜松地域のものづくり産業の成長と発展を目指しています。浜松商工会議所、浜松工業技術支援センター、静岡県中小企業団体中央会等の産業支援機関と連携し、地域の応援団として税理士、会計士、弁護士、社会保険労務士等がいます。さらに、静岡大学、浜松医科大学等の研究機関とも連携し、ものづくりをあらゆる面で支援する体制が整えられています。

また、人を育てることに力を注いでおり、センターの年間予算1億5千万円のうち5千万円が人材育成の予算です。それぞれの

産業に対応した人材育成体系があり、大学の修士学位を取得するという高い目標を目指します。技術経営、公開講座等も大学の教授が講師を務めています。

次に、ものづくりで成功している実例として市内の企業を訪ねました。

やまと興業株は、自動車部品をつくる会社です。しかし、社長は自社製品の開発に挑戦し、LED（発光ダイオード）を活用した商品開発を進めました。

ペンライトといえば豆電球が主流でしたが、研究の末、LEDをペンライトに組み込むことに成功したのです。赤、黄、緑等の色を出すペンライトはマップ等のコンサートで大人気になりました。さらにディスプレイで販売されているキャラクター商品のうち、LEDが使用されている商品は全部この会社の製品です。

新しい分野に挑む意欲とそれを支える支援の大切さを学びました。



▲やまと興業株の製品

■静岡県浜松市 浜松市の特定市民農園について

浜松市は平成19年4月1日に政令指定都市になりました。それにより、市街化区域農地は宅地並み課税が実施されることとなりました。そこで浜松市は、その対策の一つとして「特定市民農園」の認定を受け、開設を進めました。

特定市民農園は、都市農地を有効活用し、市民が緑と土に親しむ場の確保を目的としています。その要件は、①農地が市街化区域に存在、②面積が500㎡以上の農地、③20年以上、市へ無償で貸し出しが可能、④市と借地契約を結び、⑤市が市民農園として整備を行うことに同意、⑥都市計画施設になっていないことです。

特定市民農園になると、固定資産税・都市計画税は非課税、相続税は3割の評価減などの措置があります。



▶▶市民農園



さらに、①土地所有者が農業に従事しなくても農地の維持管理ができる。②市民農園に必要な施設の整備費用は市が負担するといったメリットがあります。

浜松市は今年度約1千470万円かけ、4園を開設しました。羽村市の現状は、一般市民農園が3園、体験農園が1園です。

「特定市民農園」は生産緑地も含めた農地活用が可能です。後継者のいない農地所有者、耕作が困難になった高齢な農地所有者などの中で、土地を手放したくない人には良い制度です。

羽村市では、現在、特定市民農園の認定を受けていません。また、羽村市と浜松市とは都市としての形態や農地の置かれている状況に違いがありますが、羽村市の農地を未来に残すための一つの方策として、この制度を調査、研究してはどうかと感じました。

❖ 平成21年議会の年間開催予定 ❖

❖ 3月定例会

| | |
|----------|-----------|
| 2月26日(木) | 本会議(初日) |
| 2月27日(金) | 本会議 |
| 3月2日(月) | 本会議 |
| 3月3日(火) | 本会議 |
| 3月5日(木) | 常任委員会 |
| 3月6日(金) | 常任委員会 |
| 3月9日(月) | 予算審査特別委員会 |
| 3月10日(火) | 予算審査特別委員会 |
| 3月11日(水) | 予算審査特別委員会 |
| 3月18日(水) | 本会議(最終日) |

❖ 6月定例会

| | |
|----------|----------|
| 6月9日(火) | 本会議(初日) |
| 6月10日(水) | 本会議 |
| 6月11日(木) | 本会議 |
| 6月12日(金) | 本会議 |
| 6月17日(水) | 常任委員会 |
| 6月18日(木) | 常任委員会 |
| 6月26日(金) | 本会議(最終日) |

❖ 9月定例会

| | |
|----------|-----------|
| 9月1日(火) | 本会議(初日) |
| 9月2日(水) | 本会議 |
| 9月3日(木) | 本会議 |
| 9月4日(金) | 本会議 |
| 9月8日(火) | 常任委員会 |
| 9月9日(水) | 常任委員会 |
| 9月15日(火) | 決算審査特別委員会 |
| 9月16日(水) | 決算審査特別委員会 |
| 9月17日(木) | 決算審査特別委員会 |
| 9月30日(水) | 本会議(最終日) |

❖ 12月定例会

| | |
|-----------|----------|
| 12月1日(火) | 本会議(初日) |
| 12月2日(水) | 本会議 |
| 12月3日(木) | 本会議 |
| 12月4日(金) | 本会議 |
| 12月9日(水) | 常任委員会 |
| 12月10日(木) | 常任委員会 |
| 12月18日(金) | 本会議(最終日) |

※日程は変更となる場合がありますのでご了承ください。

はむらで見られる 野鳥



セキセイインコ

スマートな身体で白黒のハッキリしたダンディな鳥です。多摩川や玉川上水で尾をさかんに振りながら飛び回る姿がよく見られます。市内ではセキセイインコ類はほかに、胸の黄色が鮮やかなキセキセイ、全体に白っぽく市街地でもよく見られるハクセキセイ、冬鳥でヒバリによく似たタヒバリが見られます。

編集後記

現在の日本経済の低迷、企業動向も消費動向も回復の兆しが見えない状況の中、羽村市議会では、中小企業振興資金融資制度の要件緩和、プレミアム付き商品券の発行等の緊急経済対策の議案を審議し、全会一致で可決いたしました。皆様と共にこの難局を乗り切ろうではありませんか。

また、12月12日に行った常任委員会の行政視察報告会も無事終了し、ご来場いただけなかった皆様には視察の内容をお知らせしたく、記事にしたためました。ご一読いただければ幸いです。

(瀧島記)

《編集委員》

瀧島 愛夫 山崎 陽一
鈴木 拓也 大塚あかね
西川美佐保 濱中 俊男
中根 康雄